

2024年4月30日

パルシステム東京 御中

平和カンパ 2023年度 年次活動報告書

生活協同組合パルシステム東京様の平和カンパにより、昨年に引き続き、タイ・ミャンマービルマ国境沿いにあるメラ難民キャンプ第1図書館、第5図書館でのノンフォーマル教育事業を支援することができました。2021年のミャンマーでの軍事クーデターにより、難民の人々の先行きが不安定になる中で、心の拠り所となるコミュニティ図書館へのご支援を、誠にありがとうございました。

1. 事業概要

事業対象地：タイ国境7カ所のミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

事業名：ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおけるコミュニティ図書館を通じたノンフォーマル教育支援事業

対象者：2023年度図書館利用者延べ4,875人（第1図書館）、延べ11,935人（第5図書館）



2. 難民キャンプを取り巻く状況

現在、タイとミャンマーの国境にある9つの難民キャンプには、ミャンマーからの難民が約90,700人（出典：UNHCR Thailand）暮らしています。難民キャンプ内の新たな大きな動きとして、第三国定住の再開に向けた準備が開始されました。第三国定住とは、UNHCR、タイ政府が協力し、難民キャンプの住民をタイやミャンマーではなく第三国へ移住させるプログラムです。2021年のミャンマーでの軍事クーデターを受けて、母国への帰還が困難となった今、第三国定住は有効な解決策の1つとして期待されています。しかし、全ての住民が第三国定住の対象になるのではなく、参加するにはいくつかの条件を満たす必要があります。一方で、第三国定住を望まない住民もいることから、第三国定住だけでなく複数の解決策が求められています。残念ながら有効な解決手段がないのが現状です。



学校での授業の様子（写真：川畑 嘉文）

3. 活動内容

① コミュニティ図書館活動

各コミュニティ図書館には2人の図書館員と図書館青年ボランティアがおり、図書の貸し出しや子どもたちへの読み聞かせなどを行いました。図書館員による読み聞かせは、絵本のほか、大型絵本、パネルシアター（ボードの上で行う人形劇）、エプロンシアター（エプロンの上で行う人形劇）も活用しています。子どもたちは放課後や休日だけでなく、学校の昼休みにも来館し、年上の子どもたちが幼い子どもたちへ率先して絵本を読んであげる様子も見られました。また、コミュニティ図書館内で行っているお遊戯は子どもたちが新しい友達を作る機会にもなりました。

② 図書館からの情報提供活動

日本から7タイトル5,962冊（カレン語3,266冊、ビルマ語2,696冊）の絵本を7つの難民キャンプの15のコミュニティ図書館へ届けました。大人向けには、毎月55冊の雑誌、新聞、小説、漫画をミャンマーから購入して配布しました。また、コミュニティ図書館には情報掲示板やPCを設置しており、ミャンマー情勢や新型コロナウイルスの情報を共有しました。

③ 学校への移動図書箱活動

移動図書箱活動はメラ難民キャンプで2023年1月から12月の間に89回実施し、3,293冊の図書が貸し出され、8,864人が利用しました。また、キャンプ内のさまざまな教育施設の教員が授業で使用する子ども向けの絵本や参考書を選ぶ際に、サポートを行いました。特に保育園の教員を中心として、多くの学校の教員が授業で利用する図書を借りました。

4. 難民キャンプからのメッセージ



写真内絵本：『なまえのないねこ』

文：竹下文子、絵：町田尚子、小峰書店

僕はソウ ポー レー カーといい小学5年生です。月曜日から金曜日は毎日学校に行っています。家にいるときは掃除をしたり水を汲んだりして家事を手伝っています。勉強するのは好きで、カレン語の勉強が一番好きです。自由時間には友達とコミュニティ図書館に行っています。あと、友達とフットボールをしたりもします。コミュニティ図書館には土曜日と毎日放課後に通っています。絵本を読んだり、絵を描いたり、体を動かすゲームをしたり、友達と色々なことをできるので、コミュニティ図書館が大好きです。気に入っている絵本は『なまえのないねこ』です。この絵本を読むと幸せな気持ちになるし、素敵な言葉を学べます。図書館員さんのことも大

好きです。図書館員さんはいつも折り紙の折り方を教えてくれたり、読み聞かせをしてくれたり、楽しませてくれます。将来はお医者さんになって両親や姉妹、兄弟、病気になった人を助けたいです。難民キャンプの状況が大変な時もコミュニティ図書館を支えてくれている日本の皆さまに心からお礼を言いたいです。ありがとうございます。